

登録コード	TS264500	開講年度	2026				
授業科目	半導体技術演習				担当教員	太子 敏則	
英文授業名	Exercise in Semiconductor Technologies				副担当		
単位数	2	講義期間	不定期	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	
講義室			授業形態	演習	備考		
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	【授業で得られる「学位授与の方針」要素】				【授業の達成目標】		
(2)授業の概要	本授業は、信州大学工学部が主導する半導体関連人材教育を主目的とする「信州半導体高度専門人材育成コンソーシアム」に参画いただいており、受け入れを認めていただいている企業での実習・インターンシップを行うことで単位習得をするものである。この授業が適用できる企業については、授業担当教員に事前に確認する必要がある。単位取得（2単位）の目安は、1日8時間×週5日×4週間の実習を行うこととする。 2026年度より工学専攻共通科目として新規に行うものであり、電気電子コースだけではなく、機械、化学、情報等の分野からも多く受講いただくことを期待している。						
(3)授業計画	本授業の履修は、以下の手順で行う。 (1) 担当教員との事前相談 (2) 企業担当者との事前相談 (3) 企業での実習 対象となる企業は、「信州半導体高度専門人材育成コンソーシアム」に参画いただいており、受け入れを認めていただいている企業のみとする。参画の有無は、担当教員に確認する。 単位取得（2単位）の目安は、1日8時間×週5日×4週間の実習を行うこととする。単位取得の例を以下に示す。 ・企業1社による実習（4週間×1回） ・企業2社による実習（2週間×2回） 上記以外の実習の方法での単位取得の可否は、担当教員に確認する。一般的に2週間に満たない短期の実習は認めず、また、上記条件での複数企業にて実習を行っても2単位を超える単位は認めない。						
(4)成績評価の方法	実習前に提出する「実習計画書」と、実習後に提出する「実習報告書」（企業担当者の署名が必要）の内容に基づいて評価する。						
(5)成績評価の基準	S：特に優れている【半導体産業の現状を熟知し、それに関わる諸技術の発展的な応用ができている】 A：優れている【半導体産業の現状を理解し、それに関わる諸技術を把握できている】 B：一般的である【半導体産業の現状を把握し、関連する特定の技術についても理解している】 C：必要最低限の内容が整っている【半導体産業の現状を把握している】 D：不十分【半導体産業の現状を把握していない】						
(6)事前事後学習の内容	実習を行う企業の事業内容、先端技術、主力製品などの概要を学んでおくことが望ましい。						
(7)履修上の注意	2026年度より工学専攻共通科目となったことから、電気電子コースだけではなく、機械、化学、情報等の分野からも多く受講いただくことを期待している。						
(8)質問、相談への対応	授業時間外での質問は各担当教員が随時受け付けする。 該当教員へ事前に電子メールまたは、電話にて連絡してください。 担当教員：太子敏則（内線5383）、taishi@shinshu-u.ac.jp						
(9)その他							
【教科書】							
【参考書】							